



最初にお読みください

CentreCOM® 9048XL リリースノート

この度は、CentreCOM 9048XL（以下、特に記載がないかぎり「本製品」と表記します）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.0.5

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.0.2 から 2.0.5 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 SHOW CONFIG コマンドなどで複数画面に渡る情報を表示中に、本製品宛での通信するとリポートが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 起動時設定ファイルに、SNMP 関連の設定が含まれていると、本製品の起動が正常に完了しない場合がありますが、これを修正しました。
- 2.3 ポート認証とループガードの LDF 検出を併用すると、LDF 検出の一部の機能が使用できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 Multiple STP において、1 つの MST インスタンスに対して多数の VLAN を関連付ける設定を行うと、一部の VID が設定ファイルに正常に反映されないことがありましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.0.5 には、以下の制限事項があります。

3.1 Multiple STP とポート認証マルチプルダイナミック VLAN の併用

Multiple STP とポート認証のマルチプルダイナミック VLAN は併用できません。

3.2 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP マネージャのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。

3.3 RADIUS サーバー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。
- RADIUS アカウンティング機能において、Accounting-Interim-Update パケットの送信が有効に設定されていても、1～3 パケット送信後に送信が停止します。また、Accounting-Interim-Update パケットの送信後に本製品からログアウトをする、Stop 属性の Accounting-Request パケットが送信されない場合があります。

3.4 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」

CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターで、FDB にダイナミックエントリーが登録されている状態のポートを指定してトランクグループを作成すると、該当ポートのエントリーが消去されません。ただし、同ポートで新たにパケットを受信すれば、エントリーは上書きされますので、運用上は問題ありません。

3.5 IP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

3.6 スイッチング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

スイッチポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。

3.7 ポートトランッキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- ポートトランッキングと IGMP Snooping 併用時、複数のトランクグループがあると、DVMRP パケット受信時に最初に作成したトランクグループ以外のグループでポートトランッキングが機能せず、グループ内のすべてのポートに DVMRP パケットがフラッディングされます。
- トランクグループに設定されている通信速度が、ポート本来の通信速度と異なる場合、以下の条件において、本製品起動時にトランクポートがポート本来の通信速度でリンクすることがあります。
 - ・ 該当ポートが SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターで AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに指定されている場合
 - ・ 該当ポートに対して 1 つ以上のスタティックエントリーが FDB に登録されている場合

ポート本来の通信速度とトランクポートに設定する通信速度は同じになるようにしてください。

3.8 ポートセキュリティ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH PORT コマンドの SECURITYMODE パラメーターでポートセキュリティを SECURED に設定する際に、対象ポートとして、INTRUSIONACTION が DISABLE に設定されているポートと、INTRUSIONACTION が DISABLE 以外に設定されているポートが混在していると、INTRUSIONACTION=DISABLE の設定が動作しません。

ポートセキュリティを SECURED にする際には、INTRUSIONACTION の設定が同一のポートを指定するようにしてください。

3.9 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。
- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。
なお、EPSR アウェアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEDICAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリーを FDB から削除する設定が可能です。

3.10 IGMP Snooping/MLD Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」

ポートトランキングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。

3.11 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

- ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN (VLANASSIGNMENTTYPE=USER 設定) で認証が行われたあと、ポート認証の機能を無効に設定しても、アサインされた VLAN に登録されている本体 MAC アドレスを持つエントリーが FDB から削除されません。
- ポート認証有効時に、Telnet 経由で SHOW DEBUG コマンドを実行すると、まれに本製品がリポートすることがあります。
SHOW DEBUG コマンドを実行する場合はコンソール経由またはポート認証を無効にして実行するようにしてください。

- 802.1X Authenticator ポートにおいて、所属 VLAN がダイナミック VLAN によってアサインされている状態で Supplicant の再認証を行うと、認証に成功しても Authenticator ポートの状態が待機中 (Held) になることがあります。

3.12 スパニングツリー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

3.13 Web GUI

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

- Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版) のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。
グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。
- Multiple STP において、1 つの MST インスタンスに対して多数の VLAN を関連付ける設定を行うと、CIST/MSTP インスタンス一覧画面で一部の VID が正しく表示されないことがあります。
CIST/MSTP インスタンス変更画面では正しく表示されます。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.0.2 (613-001280 Rev.A)」の補足事項です。

4.1 トリガーエントリーの作成

 **参照** 「取扱説明書」 85 ページ

取扱説明書の 85 ページ「トリガーエントリーの作成」において、CREATE TRIGGER コマンドの ENDTIME と STARTDATE パラメーターの説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- ENDTIME
誤：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。
正：
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。
- STARTDATE
誤：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。
正：
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

4.2 バーチャル LAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

マルチプル VLAN (Protected Port VLAN) とポートベース VLAN 併用時、マルチプル VLAN のアップリンクポートをタグ付きにして、どちらの VLAN にも所属させる設定を行うと、アップリンクポートからポートベース VLAN 側にパケットが送信されません。

4.3 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドの「備考・注意事項」において、記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

サポート Supplicant 数はすべての認証メカニズムを合わせて、320/PORT、480/SWITCH である。マルチプルダイナミック VLAN 使用時のサポート Supplicant 数は 2/PORT、104/SWITCH である。

正：

サポート Supplicant 数はすべての認証メカニズムを合わせて、320/PORT、480/SWITCH である。マルチプルダイナミック VLAN 使用時のサポート Supplicant 数は 40 である。

- ポート認証 / 概要・基本設定の「Supplicant として使用する際の設定例」において、「802.1X Supplicant としての動作においては、IP の設定は必須ではありません。」という記述がありますが、IP が設定されていないと、Authenticator からの Request に対して応答せず、認証ができません。IP の設定は必要ですので、訂正してお詫びいたします。

5 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
RESET PORTAUTH PORT
LOAD [BOOTPKG]
SET IGMP Snooping HOSTSTATUS
SET MLD Snooping HOSTSTATUS
SET SYSTEM HASHSELECT
```

6 コマンドリファレンスについて

コマンドリファレンス「CentreCOM 9048XL コマンドリファレンス 2.0.2 (613-001280 Rev.A)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001280 Rev.A」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>